



財団法人栃木県国際交流協会
Tochigi International Association

TIAニュース

やあ!

2000
MARCH
No.66

3

WORLD HERITAGE
世界遺産



▲オーストリアのウィーンにあるシェーンブルン（「美しい泉」の意）宮殿。夏の離宮としてハプスブルグ家の歴代皇帝により建築が進められ、マリア・テレジア女帝が最終的に完成させた。女帝の末娘であるマリー・アントワネットもフランスに嫁するまで夏をここで過ごしている。内部はロココ様式で豪華。1141室のうち、約40室が一般公開されている。（提供：オーストリア政府観光局／撮影：Wiesenhofer）

特集 新しくなった
TIAホームページ
活用術

TIAホームページ

URL <http://www.pto.co.jp/tia/>

- ◆ JETコーナー マイケル・コルベットさん（カナダ出身）
- ◆ トピックス 南米から短期研修生が来県
フランス・ヴォークリューズ県に高校生が出発
- ◆ インタビュー 栃木県浙江省友好交流員
- ◆ 国際交流団体紹介 喜連川日中友好協会
- ◆ レポート キッズ・インターナショナル・クラブ
先生のための国際理解教育実践セミナー
太極拳入門講座
マルチカルチャー講座

JETコーナー

外国語指導助手

マイケル・コルベットさん

(カナダ出身)

とてもおいしい納豆のような私、マイケル・コルベットです。ご存知ない？かめばかむほど味のある私を？知れば知るほどいい男なんです。お信じ下さいな！



友人がフィジーのビーチで日本人女性に会った時の話をすれば、何故私が日本にいるのが少しわかっていただけるでしょう。友人7人位でフィジー島でたき火を囲み座っていると、どこからともなくギターが登場し、それは友人がちょっと前に出会った日本人の女性の手の中に。彼女は弦を少しならしはしたけれども、どうして良いかわからないようでした。そこで、彼女の側に座っていた私の友人が何か弾くように彼女に頼んでみると、「だめ、ホントにホントに何にも弾けないから」と。そこでしつこく何か、何でもいから弾くように何度も頼みました。場が少ししられ、何も弾けない、弾けないと拒み続けた後、ようやく彼女は渋々ギターを握り、ワン・ツー・スリー。彼女が奏でた音色は、未だかつて耳にしたことがないくらい美し

く、そしてたき火は静かに燃え尽きました。私の言いたい事、わかっていただけましたか。私はこのエピソードがとても好きです。この完璧なまでの謙虚さは、日本での日常生活で会う人々にも言える事です。出会った人々の、この謙虚さと控えめなところが、日本の最も好きなところなんです。天使のような人にしか出会っていないと言う訳ではなく、とても素晴らしい人に出会えたと言う事です。

他には、私は、ケベック地方モントリオール(他言語使用都市)〜ケベックは言語に関する政治で有名ですが〜出身なので、小さい頃から家庭でも、学校でも英語とフランス語の両方を使っており、その頃から言語に関する興味がとてもあり、ロシア語とスペイン語、ほんの少しの日本語まで勉強してしまいました。ここで、次のポイントとなる「ばか」という言葉について語りたいと思います。「ばか」何と素晴らしい言葉なんでしょう！他の言語にも、「愚かさ」を表す言葉はもちろんありますが、この単語ほど端的にそして明確に示しているものはないと思います。ようやく、何故私が日本をこよなく愛しているかわかってもらえたか。セーターを逆に着ている時に、この言葉を耳にすると「きちんとしよう」と自覚させられ、自転車から落ちそうになった時、この言葉を聞くこと信じられない程同感してしまいます。そして私のごちそうとも言えるべき『豆腐に醤油』の話をする時の人々の反応を見ても…。この続きはお会いしてお話ししましょう。

My name is Michael Corbett. You may know me as the deliciously nutritious fermented Soya bean treat. If you do not, try me over and over until you like me. Trust me! I am really good.

A friend of mine has story of meeting a Japanese woman on a beach in Fiji that describes a part of

what is important to me about living in Japan.

...A group of about 7 of them were sitting around a bonfire in Fiji. Out of somewhere appears a guitar which somehow eventually finds itself in the hands of the Japanese woman with whom my friend had recently met. The young woman started to pluck at it here and there but not as if she knew what to do with it. My friend, who was sitting beside of her, heard noise now and then coming from the guitar and asked her if she could play. No. Really. Really. I can't play. She said. My friend insisted. Can you play anything? Come on, come on, something, anything is OK, we don't care if it's bad. It's just for fun. By this time, though, a silence came down around the fire... I can't. I really can't, she said, I'm so bad... Finally, she picked up the guitar hesitantly with both hands and begins... one, two, three, ... out of the guitar come the most beautiful classical guitar music any of them had ever heard... the fire cried and put itself out... you get the point.

I love this story. For me it sums up the wonderful humility I've seen in some of the people in my everyday life, here, in Japan. This humility, and a generally lower level of aggression in the people I meet and talk to are what I appreciate most about living here. I am not saying that I have only met angels, only that I have met some very nice people.

Another thing about... I am from Montreal, Quebec. Montreal is a multi-lingual city (regardless of the strange language politics which has made the province of Quebec famous). As such, I grew up in a home that was both English and French. My education was also in both languages. As it happened, I grew to love languages and studied Russian, Spanish and, now, a bit of Japanese. This brings me to my next point... BAKA! Oh, how I love that word. Sure, there are words in every language by which to call a fool but, none have described me better than BAKA. Now, you can understand why I feel so at home in Japan. It is the land of the word that straightens me up with pride when my sweater is on backwards, the word that brings tears of joy and recognition when I trip over my own bicycle, the reason everyone runs when I tell them I love to eat tofu with Soya sauce, and... well, I'll let you finish this when we have actually met in person.

トピックス TOPICS

南米から短期研修生が来県

栃木県から南米に移住した人々の子弟を本県に招待し、両親や祖母の生まれた国を知ってもらう「栃木県南米移住者子弟短期研修生受入事業」が2月7日から19日までの約2週間実施された。

訪問団は、在伯栃木県人会の村田美穂子さんを団長に、ブラジル・サンパウロ州のクラウジア・プリシーラ・マルチネスさん、及川ようこビビアネさん、中内三浦ルシアナさんの3名と、ブラジル・パラ州のプラゼルス鶴崎かずさジャクリーネさん、パラグ



▲副知事表敬
左から中内、クラウジア、
鶴崎、及川(敬称略)中央、
小菅副知事

上三川高校で書道の挑戦



アイ・エンカルナシオン市のマリア・アンヘリカ・オヘダ・タカダさんが来日。一行は、益子でのろくろ体験や都内視察を経て、県内の親族宅や県立上三川高校生のお宅にホームステイし、日本の生活や文化に触れた。体験通学受入校の上三川高校では、書道、箔細工、華道、茶道、調理実習などの日本的な科目に挑戦したほか、数学、化学、英語、地理などの一般の授業にも参加。また、同高校では放送部に力を入れていることから、短期研修生たちは、カメラの前でひとりずつ日本語での自己紹介を披露。この模様は昼休みに校内放送で流れたほか、この記録ビデオが研修生たちに贈られた。

研修生は、「日本の高校に体験通学できて、とてもよかった。日本人の友達がたくさんできて嬉しかった。」「毎日が新しい発見の連続だった。母国ではできない陶芸やスキーができてよかった。」などと日本滞在の感想を話していた。

フランス・ヴォークリューズ県に 高校生が出発

栃木県と友好交流を続けているフランスのヴォークリューズ県で、高校への体験通学やホームステイ等を行う「栃木県日仏青少年短期研修事業」で派遣される高校生の団員5名が、3月14日にフランスに向けて出発した。団員の5名は、去る12月21日に行われた選考会で、県内の高校生30名の中から選ばれた生徒たち。一行はバリでのショートプログラムのあとヴォークリューズ県入りし、3月27日に帰国する。〔団長：永山一夫(宇都宮高校教諭)、団員：井上摩耶(宇都宮海星女子学院高校2年)、塩井友紀子(栃木女子高校2年)、高森康夫(鳥山高校1年)、古家久美子(宇都宮女子高校2年)、呂維杰(宇都宮清陵高校2年)〕敬称略



▲後列左から井上、呂、高森
前列左から古家、永山、塩井

インタビュー

栃木県 友好交流員 浙江省



▲左から
薄根尚子さん（宇都宮市在住）
高橋京子さん（壬生町在住）
芳士戸美香さん（真岡市在住）

栃木県の友好交流先、中国浙江省で半年間語学等の研修を行ってきた「友好交流員」3名が研修を終えてこのたび帰国した。この派遣は平成6年度に始まり、今年度で6回目。平成11年9月に浙江大学に派遣されていた3名がTIAに帰国のあいさつに来て下さったので、早速インタビューした。——大学での学生生活はいかがでしたか？

3名：勉強しましたね～。すごく。

——中国語以外に勉強なさったことはありますか。

高橋：私は選択授業で水墨画と散打（さんだ）という武術をとっていました。日本ではなじみのない武術ですね。

芳士戸：私は週1回、書道の授業をとっていました。

薄根：私は選択授業をとらない分、もともと興味があった料理についての知識を得るため、美味しいものを追い求めた生活をしていたところ、半年で5キロ太ってしまいました。

——皆さん、中国滞在中は学寮にお住まいだったそうですが。

3名：留学生ばかりを集めた、留学生寮というところに住んでいました。

高橋：留学生寮は4階建てで、数百人の留学生が住んでいるにもかかわらず、洗濯機が3台しかないの、洗濯しようすると順番待ちになるんです。

薄根：掃除も掃除機ではなく、ほうきをつかって掃くんですよ。

芳士戸：日本にいたらやらないであろう料理なんかも一生懸命したりして。

3名：日本にいたときよりも家事を一生懸命やりましたね。

——他の国からの留学生や現地の中国人学生をみて感じたことは？

高橋：中国人学生ってものすごく勉強するんです。パワーを感じましたね。

芳士戸：留学生は日本人のほか、欧、豪、ニュージーランド、インドネシア、アフリカが多くて、北米は意外と少なかったですね。

薄根：ドイツ人学生が多かったような。彼らは発音はいいのですが、4種類ある声調のうち、2つしか発声できなくて、語学指導の先生にからかわれたりしていました。

——中国人と日本人の違いを感じたことは？

薄根：人間関係の距離のおき方が違うような気がします。

芳士戸：一回話したら即友達みたいなのところがあるんです。

——高橋さんと芳士戸さんは、これ以前にも中国留学経験がおありだそうですが、以前と比べて変わったと思うことは？

高橋：主に芸能情報なんですが、日本の情報が格段に増えましたね。

芳士戸：私、渡航前に宇多田ヒカルの新譜のCDを購入して行ったら、現地で同じものが発売されていて、ちょっとショックでした。（笑）

——最後に、浙江省とはどんなところですか？

3名：親切な人が多いところですよ！

国際交流団体紹介

喜連川日中友好協会

1. 喜連川日中友好協会の設立までの歩み

1980年代南那須町で中国青海省から酪農研修生を受け入れていた。酪農家への1年間の住み込み研修である。当時から中国に関わりのある中澤現会長が、個人的に6名の研修生と出会い交流を続けた。そのころ、中澤会長の菩提寺を会場に、そば会をやっており、仲間に研修生との交流を話したところ、40数名の賛同を得ることが出来、“そば会”を母体に日中友好協会を設立することになった。現会長を中心に、住職ほか有志3、4名で設立の準備を行い、昭和61年7月12日に設立総会を開き、喜連川日中友好協会が誕生した。8月に臨時総会を開き、事業計画が決められた。同年9月10日から第一回の訪中団15名が青海省を訪問した。翌62年1月に第一回の新年会を開催、研修生や留学生を招き、交流が深められた。また、南那須町研修生歓送迎会には、その都度出席した。

2. 喜連川日中友好協会の活動

平成11年度定期総会で第14回を迎える。本会は、日中両国民の相互理解を深め、永遠の友好親善を結ぶことを目的とするもので、入会条件は、いうまでもなく、この会の目的に賛同し、会費を納入した者である。活動内容としては、在町の中国人はもとより、日本在住の中国人留学生や研修生等との親善交流を行い、帰国後も文通等による交流を続けるほか、訪中を送るなど、友好交流を深めている。

具体的には、中国人を招待しての日中友好春節（旧正月）の集いの開催、県国際交流課、県国際交流協会の事業への積極的な参加、喜連川町国際交流協会、県内国際交流団体との連携、日中友好“そば会”その他の国際交流活動、「日本と中国」の新聞講読等である。

民間団体として、地道な活動を通して友人の輪が広がりつつあり、個人的にもそれぞれ友好交流が続いている。

3. 喜連川町国際交流協会設立に協力

平成8年1月の町国際交流協会の設立、及びその後の運営に積極的に協力している。

当協会の7回にわたる訪中を通して友好交流を深めて来た浙江省の「螢石の里、温泉の町」金華市武義県へ、平

成10年9月に、花塚町長を団長に14名で友好視察訪問をした。また、平成11年4月9日から12日まで、武義県友好訪問団が本町を視察され、その間の案内役を当協会の関係者が担当した。3班に分かれてのホームステイは大好評であった。

4. 日中友好春節の集いを盛大に開催

2月12日に喜連川町桜並木のニュー寿楽で、第12回「日中友好春節の集い」を開催した。会場には、在県中国人、招待者、会員総勢60余名が集まり、日中友好協会設立50周年と2000年春節を盛大に祝うことができた。祝宴では、日本舞踊の花柳喜乃重紀さんの指導を受けた留学生夫人の高杉さんが「さくら舞曲」を披露。また、高杉さんの見事なバイオリン伴奏で、花柳さんが「荒城の月」を披露された。最後に全員で「北国の春」「海はふるさと」（大海啊、故郷）を合唱した。新年快樂。

（事務局：稲沢永次 TEL028-685-3320）



▲2000年2月12日開催「日中友好春節の集い」



新しくなった

TIAホームページ活用術

URL <http://www.pto.co.jp/tia/>

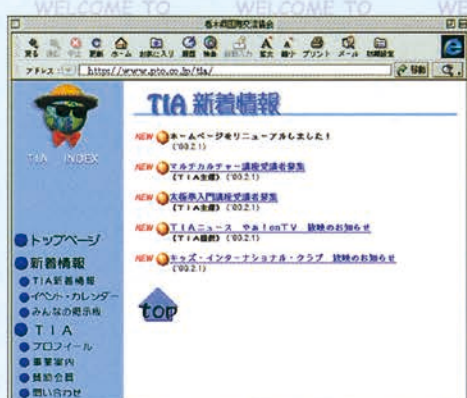
メインメニュー

2月はじめに内容を一新したTIAのホームページ、もうご覧いただけただしょうか。より多くの方々に活用していただけるよう、情報量を増やしました。



やあーの
バックナンバーのページもあるぞ

イチオシコーナー 新着情報&イベントカレンダー



ページをご覧になる皆さんが書き込める掲示板を準備中です。
(ごめんなさい。もう少し待ってね。)

工事中
もう少し早く
お持ち下さい



「何かイベントに参加したい。」
「今月ヒマ。なんかないかなあ？」というあなた、こちらでイベント情報をチェックしてみたいかがですか？



それぞれの行事のところをクリックすると内容がわかります。



TIA INDEX

イチオシコーナー とちぎの国際交流団体

ここでは、栃木県内の国際交流団体を、50音別、活動別、関係のある国別などで検索できるページ。探す団体がきっと見つかるかも？

団体紹介ページはこんな感じ

①をクリックすると

50音別の一覧が表示。県内の国際交流団体が一目瞭然。

②をクリックすると

団体の名前は知っているのけど、活動内容が知りたいという方はここから団体ページへGO！

③をクリックすると

自分の住んでいる身近な地域で活動している団体が分かります。

④をクリックすると

「こんな活動がしてみたいんだけど、参加できる団体はあるのかな？」というあなたはこれからどうぞ。

⑤をクリックすると

特定の国へ興味のある方はこちらのページへ。

●トップページ

●新着情報

- TIA新着情報
- イベント・カレンダー
- みんなの掲示板

● T I A

●プロフィール

●事業案内

●賛助会員

●問い合わせ

●知って得る情報

- TIAニュースやあ！
- とちぎの国際交流団体
- 国際理解
- TIAリンク集

BGM



Page des. MATSUI

ご意見・ご感想はこちら

レポート

キッズ・インターナショナル・クラブ

平成12年1月22日、23日の両日、県内在住の小学生を対象にしたイベント「キッズ・インターナショナル・クラブ」を開催した。このイベントは、子供たちの国際感覚を養うために、外国人とのふれあいを通して、外国の言語や文化に親しんでもらおうという体験学習型のもの。講師は、県内在住の9か国13人の外国人。22日は40名、23日には20名の参加があった。



◀挨拶を通してのコミュニケーション



▶グアテマラのとりやんせ「カンパニタス・デ・オーロ」

22日は8か国語での挨拶を通して外国人とコミュニケーションをはかるところから始まり、カンパニタス・デ・オーロ（グアテマラととりやんせ）やザンビアのあきかん入れ、アメリカのヘッド・ショルダーズニーズ・アンド・トウズなど、アジア、アフリカ、北米、中米、南米の子供たちの遊びを実際に行った。

また、23日は、お菓子づくり教室を開催。「ラング・ド・シャ（フランス語で「猫の舌」の意）」を作った。



◀お菓子教室

先生のための国際理解教育実践セミナー

豊かな人間性の育成をめざし、小学校・中学校では2000年から、高校では2003年から、「総合的な学習の時間」が実施されることに先がけ、この時間のテーマのひとつとして考えられる国際理解教育に役立つ情報を提供しようと、2月4日、「先生のための国際理解教育実践セミナー」を開催した。

このセミナーは小学校の先生を対象に行ったもので、県内各地から52名の参加者があった。

午前の部は、国際理解教育のための各種情報の提供。とちぎ国際交流センターの活用方法やセンターが提供できる国際理解教育支援に関するサービスなどを紹介したほか、県内の民間国際交流団体で、国際理解教育分野で学校に協力可能な団体の中から3団体が出席。それぞれの団体の活動内容や協力できる内容について説明した。

午後の部では、総合学習の時間で実際に活用できる内容を、教材等を使い、出席者



▲体験学習「フォトランゲージ」
1枚の写真を見ながら内容を考える参加者たち（左端はファシリテーター）

全員で体験学習し（ファシリテーター：ガールスカウト栃木第23団リーダー栗原敏子氏）、教材の利用方法や手法、効果や注意点などについて学んだ。また、セミナーの最後には、当日の内容をふりかえるとともに、国際理解教育に関する問題点などについての話し合いが行われた。

参加者からは、「国際理解教育が、領域として独立して学習するものであり、その方向性が見えた」等の感想が寄せられた。



▲国際理解教育問題点などについて発表する参加者

太極拳入門講座

TIAでは、太極拳に接したことのない全くの初心者を対象に、太極拳の入門講座を開催した。これは、太極拳を通して中国への理解と関心を深めてもらうことを目的に開催したもの。3月3日から計5回のレッスンが行われ、県民20名が参加。本場中国人講師の指導のもと、熱心に取り組む姿が見られた。



▶熱心に取り組む受講生たち

マルチカルチャー講座

2月19日から3月18日までの毎土曜日、栃木県在住の外国人による文化講座を開催した。

この講座は、受講者が実際に体験しながら外国文化に親しめる内容。第1回のトルコ編では、文化、



◀2月19日開催
トルコの民族舞踊

歴史、民族舞踊の講座が行われ、第2回の



▲2月26日開催
ブラジルの軽食パステウ

ブラジル編では、現地の軽食・パステウ（揚げ餃子のようなもの）を実際に調理し、講師とともに食した。第3回の中国編では、胡弓、京劇、歌などの芸術に触れ、第4回のフィリピン編では、ゲームやクイズ、歌などで楽しく遊び、第5回のブルガリア編では民族舞踊や言語を学ぶなどした。



◀3月4日開催
中国の胡弓

情報発信 地域の国際交流案内

★2000年夏期・A F S短期派遣プログラム生募集

▶内容＝ボランティアの受入家庭での生活体験、語学研修を通しての派遣先国の文化・社会・語学の学習▶派遣先＝タイ、ニュージーランド、オーストラリア、中国、アメリカ▶募集人員＝205名▶派遣期間＝7月下旬～8月下旬▶応募資格＝①タイ：高校生から22歳まで。②ニュージーランド・オーストラリア：高校生及び専門学校生で1982年1月20日以降生まれの者。③中国：高校生から65歳位まで。④アメリカ：大学、短大、専門学校在学（22歳まで）▶応募締切＝4月28日▶資料請求＝氏名、年齢、住所、電話番号、学校名、学年、希望国を明記し電子メール、ファックス、ハガキのいずれかで請求。電子メール info@afs.or.jp. http://www.mmjp.or.jp/afsjapan/ ファックス情報サービス：03-5251-0180 Box No. 20# 〒105-0001 東京都港区虎の門1-17-1 虎の門5森ビル6階財団法人エイ・エフ・エス日本協会東日本事務所 TEL03-5251-0175 FAX03-5251-0177

★南十字星クルーズ～オセアニアをゆく初航路！！

ピースボートにとってちょうど30回目になるクルーズ。各寄港地のNGOや学生たちと交流しながら草の根交流をする。また、それぞれの寄港地で、現地の先住民族の生活体験や世界遺産観光などのオプションツアーも企画。部分参加コース設定あり。

▶寄港地（予定）＝フィリピン、東ティモール、オーストラリア、ニュージーランド、ニューカレドニア、ガダルカナル、バプアニューギニア、ミクロネシア連邦。▶期間＝2000年8月31日～10月14日（フルクルーズの場合）▶割引＝学割（学生または満23歳未満）、早期割引（フルクルーズ申込者で3月20日午後2時までに代金を電信入金した者に適用）、ボランティアスタッフ割引など。▶クルーズ説明会＝3月12日（日）3月25日（土）。いずれも18:30から。中野サンブラザ8階研修室にて。▶ボランティアスタッフ説明会＝3月20日（月・祝）14:00から。ピースボート事務局にて。▶資料請求先＝ピースボート事務局 〒169-0075東京都新宿区高田馬場3-13-1 ノークビル4階 TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562 ホームページhttp://www.peaceboat.org 電子メールXLC00501@nifty.ne.jp

★第4回MSFフォトジャーナリスト賞

国境なき医師団（MSF:Medecins Sans Frontieres）日本は、20歳から30歳までのフォトジャーナリストを志す若い写真家を対象にコンクールを開催する。▶内容＝指定するテーマの中から1つを選び、写真20点と1200字から2000字以内の文章でルポルタージュを作成。（写真はカラーまたはモノクロ。プリントサイズは六ツ切り＝8×10。カラーはポジフィルムでも可。）▶テーマ＝①介護の現場から②工場の人々③日本の危機▶締切＝4月24日月曜日必着。▶審査委員会委員＝国境なき医師団日本のメンバー、プロの写真家、企業の代表者。審査委員長は写真家の大石芳野氏。▶その他＝入賞者にはMSFの医師団が派遣されている現地におけるルポルタージュを制作してもらう。完成後、写真展で発表。（過去の取材先＝マラウイ、グアテマラ、ケニ

ア、エチオピア）▶資料請求・問い合わせ先＝MSF日本〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-28-1 第6康洋ビル4階 TEL03-3366-8571 FAX03-3366-8573 電子メール msf@japan.msf.org

★高校生エッセイコンテスト2000

▶テーマ＝「途上国や国際協力について考えていること」（例）開発途上国の人々とのふれあい、自分の参加した開発途上国に対するボランティア活動、国際社会における日本の役割など。題は自由。▶応募資格＝2000年4月現在、高校生であること。▶締切＝5月10日水曜日（当日消印有効）▶応募規定＝400字詰め原稿用紙（A4サイズ）4枚以内。▶応募方法＝400字詰め原稿用紙（A4サイズ）に①住所・郵便番号②氏名（フリガナ）③電話番号④年齢⑤性別⑥学校名⑦学年（2000年4月現在）⑧海外旅行経験の有無⑨どのようにしてこのコンテストを知ったか、を明記する。未発表のオリジナル作品に限る。▶審査員＝神津カンナ（作家）他▶賞＝①特選4名（国際協力事業団総裁賞2名、外務大臣賞1名、文部大臣奨励賞1名）。副賞／約10日間のブラジル研修旅行②準特選4名。副賞／約1週間のインドネシア旅行。③審査員特別賞6名。副賞／2泊3日の国内研修旅行。④その他、国際協力事業団支部長賞や国際センター長賞などの各賞を用意。▶発表＝2000年8月上旬に入賞者に直接通知するほか、「国際協力」9月号誌上で入選作品を発表。なお、著作権は国際協力事業団に帰属するものとする。また、応募作品は返却しない。▶主催＝国際協力事業団（JICA）▶応募・問い合わせ先（栃木県の場合）＝国際協力事業団関東支部〒336-0002 埼玉県浦和市北浦和4-5-5 北浦和大栄ビル7階 TEL048-834-7770(代)

印刷からテレビCM制作まで



必要なときに必要なだけ オンデマンド印刷機

インターネットのホームページ制作は当社へ！

株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷

〒321-0904 宇都宮市陽東5丁目9番21号

TEL 028-662-2511(代) FAX 028-662-4278

URL: http://www.pto.co.jp/ E-mail: pto2@mx1.alpha-web.ne.jp

ツーリストのギフトカード B'way

全国共通ギフト券

デパート・スーパー・専門店 レストラン 旅行

春の贈り物に。

全国300,000店で使えて、旅行もできるスーパーギフト。

「B'way」は贈られた方の好みで、自由に使っていただけるギフトカードです。全国のデパート、スーパー、専門店、レストラン、ホテルなど全国300,000店で商品券として使えるほか、近畿日本ツーリストで旅行券としてお使いになれます。券種は、500円券、1,000円券、5,000円券、の3種類がご用意です。



人が好む。場所が好む。旅がスキ。 近畿日本ツーリスト

宇都宮支店 〒320-0801 宇都宮市池上町2-2 TEL 028-633-2151

TIA Information Corner

★日本語講座 4月開講

▶期間＝4月8日から9月30日まで。毎週土曜日14:00～16:00 ▶対象＝在県外国人
▶場所＝とちぎ国際交流センター会議室▶
受講料＝無料（テキスト代実費要）
▶申し込み及び問い合わせ＝TIA日本語講座係TEL028-621-0777

★JAPANESE LANGUAGE CLASS REGISTRATION beginning in April

▶Date: Every Saturday 14:00～16:00
from April 8 to September 30
▶Participants: Prefectural Foreign residents
▶Location: Meeting room of the Tochigi International Center (2nd floor)
▶Tuition: Free, however, students have to purchase a textbook
▶For more information, Call TIA at 028-621-0777.

TIAライブラリー案内

（貸出のお問い合わせはTIAまで）

●アジアの子ども



アジアからの研修生の母国のくらしを知る機会を残念ながら多くない。この本では、そうした現地の実生活…とりわけ、そこに生きる子供たちの姿や取り巻く環境などをイラスト入りで紹介。もともと子ども向けにつくられた原稿を加筆訂正して作られた本書は、説明を簡略化し、漢字にはふりがなをつけるなど、小学生が

読んでもわかる内容になっている。開発教育の教材としても生かせる1冊。((財)アジア保健研修財団「アジアのこども」編集委員会編/偕明石書店発行/1,553円+税)

●小学校英語教育A to Z vol. 1

キーポイント早わかりガイド



2002年に実施予定の「総合的な学習の時間」における「国際理解・外国語会話教育」の学習に焦点を絞り、小学校での英語学習の意義・目的・課題等について取り上げるシリーズ。第1巻は、初めてこの教育に取り組む先生方を対象に、キーポイントをわかりやすく解説している。（開隆堂出版(株)発行/2,000円+税）

TIA日誌

2000年1月1日～2000年2月29日

- 1/14 日仏青少年短期研修事業第1回研修会（センター）
- 1/16 国連英検二次試験（センター）
- 1/22 キッズ・インターナショナル・クラブ/児童映画上映会（～23日・センター）
- 2/1 日仏青少年短期研修事業第2回研修会（センター）
- 2/4 先生のための国際理解教育実践セミナー（センター）
- 2/7 栃木県南米移住者子弟短期研修生受入（～19日まで）
- 2/12 日仏青少年短期研修事業第3回研修

会（センター）

- 2/13 国際交流紹介番組放映（とちぎテレビ）
- 2/16 県費留学生・海外技術研修員・南米移住者子弟短期研修生スキー研修（～17日・日光湯元）
- 2/19 第1回マルチカルチャー講座・トルコ編（センター）
- 2/25 日仏青少年短期研修事業第4回研修会（センター）
- 2/26 青年海外協力隊派遣隊員家族懇談会（センター）
- 第2回マルチカルチャー講座・ブラジル編（センター）
- 2/28 キッズ・インターナショナル・クラブ放映（～3月5日・宇都宮ケーブルテレビ）

TIA賛助会員募集中!

賛助会員になりますと、TIAの機関紙各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ（海外→日本、日本→海外）をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。

＜新規賛助会員の方々＞

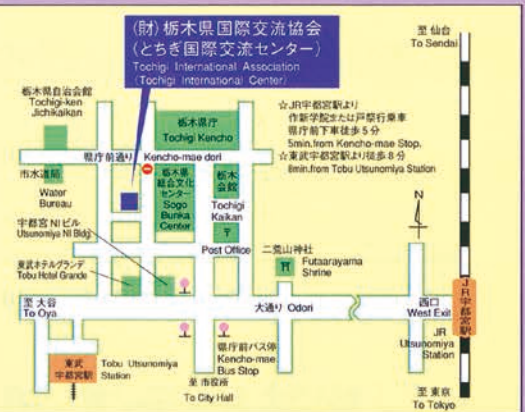
個人：マイケル・モイニハン様、シェーン・ダンカン様、荒川昌子様、大友弓子様
～ご入会、ありがとうございます～

編集後記

○県費留学生・海外技術研修員・南米移住者子弟短期研修生の日光湯元でのスキー研修に参加した短期研修生担当のN・Tは、たまった仕事とワープロを旅館に持ち込み、スキー教室に参加する研修生たちを送り出した後、ただひとり部屋に残り必死で仕事をした。（用事があって事務所から電話をかけてきた同僚Uは大笑い。）その甲斐あって、翌日にゲレンデに繰り出せた彼女がそこで見たものは、1日で上達し、悠々と滑る研修生たちの姿だった。ボーゲンすらできないスキー超初心者N・Tはしばしボー然。結局、彼女は、斜面の横歩きだけが上達し、帰路についたのであった。

※財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人（寄附金の損金算入等の課税特別措置）の認定を受けています。当協会の事業にご賛同下さる企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

TIA案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
FAX 028-621-0951
業務時間 8:30～17:15
休館日/日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日